



クリスマスを祝いました。(ふれあい)



リモートでクリスマス会を行いました。(エデンの園)



エデンホーム三名望年会を行いました。
(エデンホーム三名)



みんなで楽しいクリスマス会です。(麦わらぼうし)



リンゴ贈呈式に参加しました。(つむぎ)



クッキーづくりを楽しみました。(ほのか)

聖書のことば

一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままです。
しかし、死ぬなら、豊かな実を結びます。(聖書 ヨハネの福音書12章24節)

～ 愛 ブランド ～

理事長 川 越 瑞 枝

謹んで新年のご挨拶を申し上げます

昨年は新型コロナウイルスに振り回された1年でした。都道府県によっては医療崩壊の危機や限界が報じられ、ハラハラしながら過ごした長い1年だったような気がします。ワクチン開発は各国で進められているようですが、先だって、沖縄県の大学の研究者がすすめているワクチンが、世界中から注目されて話題になっているとのニュースを見て、「やっぱり日本人はすごいんだなあ。」と楽しみにになりました。

エデンの園でも新型コロナ感染対策として行事等を延期したり、縮小して利用者の感染リスクを抑えながら支援を行っています。さらに、感染者が出た場合に備え、生活エリアの分けを想定したり、看護体制や勤務の仕方を確認し、防護服の着脱練習など対策を練ってきました。

昨年末、大量の感染者が出た第3波によって再び「ステイホーム」に引き戻され、町に出かける訳にもいかず、畑に行って一回りする。「たまねぎは草に隠れそうだ。」「にんにくは土寄せがいる。」「らっきょうは水が足りない。」と作業を催促されている気がしてきました。「陽の高いうちは草取りだ！」と草取りに手を出すとすぐに夢中になってしまいます。いい土を作りながら、有機無農薬野菜を循環型栽培によって育てています。野菜本来の味とはどんなものかを追求しているところです。私なりのブランド野菜です。

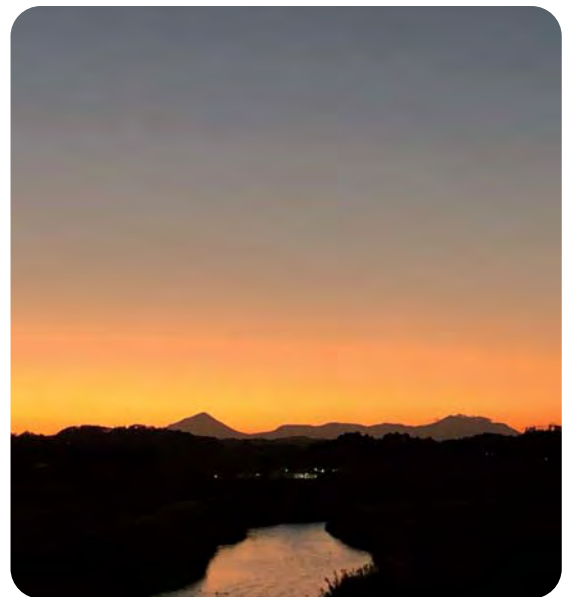
親から貰った300坪あまりの家庭菜園で主にニンニクや玉ねぎ等を栽培し始めて30年くらい、仕事が休みの日だけの百姓なので手のかかる葉ものなどは作れません。最近は種から育てて苗にしたニンニクをエデンの園の畑にも移植しました。思ったよりも土が堅くて石

ころも混ざっていて、根ものの生育には厳しいかなと思いつつも水やりなどを手伝ってもらっており、なんとか育っています。

話は変わりますが、1970年代、エデンの園建設運動の前段階で、「重複障がい者を守る会」時に、家庭訪問をしていた方々は今もほとんどの人が施設がグループホームで生活されています。その後、「共に生きる会」になってその活動を評価していただき、法人設立に背中を押して頂いた宮崎県や宮崎県社協の期待は、「共に生きる会」から「社会福祉法人エデンの園」に引き継がれています。

利用者が自分らしく幸せに生活しながら、やりたいことを見つけ、夢に手を伸ばせているだろうか。神さまの愛に支えられながら共に歩き、魅力ある支援ができているだろうか。そんなことを思いつつ、まだ先の見えないコロナ禍の新年、「愛ブランド」を目標に1歩を踏み出します。

**「神のなさることは
すべて時にかなって美しい」(聖書)**



霧島山系(三名深年川から)

それぞれの事業所から

エデンの園 第1福祉課

●エデンの園

ニュースタイルなクリスマス会

12月24日に障がい者支援施設エデンの園ではクリスマス会が開かれました。従来は多目的ホールや食堂に全利用者が集まり礼拝と祝会、お食事会を開催しますが、今年は新型コロナウイルス感染予防の観点から例年とは違ったスタイルでの実施となりました。

新しい試みとして、居住エリアごとにモニターやスクリーンを設置し館内放送と映像を使ってリモートで礼拝と祝会を行い、食事会もエリア別で実施しました。会場となる各エリアは利用者・職員が協力して装飾を施し、例年以上に施設全体が華やかなものとなりました。

会自体も各エリア盛り上がりを見せ、例年に負けない楽しく思い出に残るクリスマス会となりました。

障がい者支援施設エデンの園
サービス管理責任者 光 森 勇 人



食堂には豪華なツリー



サンタがやってきました!!

●エデンホーム三名(みらい・のぞみ)



望年会

エデンホーム三名で望年会を行いました。例年ですと、市内の飲食店で「ホームみらい」「のぞみの家」合同で行っていましたが、このコロナ禍、今年は各ホームで行うこととしました。各ホーム、バーベキュー、カラオケタイム、ビンゴゲームと趣向を凝らし楽しんで頂きました。今年は外出の回数も減り、皆さんも我慢の年でした。そこでプレゼントを沢山準備しました。プレゼンターは謎のプーさんです。

エデンホーム三名
サービス管理責任者 林 裕 一

●エデンの園 ふれあい

クリスマス会を開催しました。

今年一番の寒い朝を迎えた12月25日金曜日、エデンの園 ふれあいではクリスマス会を開催しました。午前中の礼拝ではクリスマスメッセージを聞き、午後からの祝会では笑顔あふれる楽しいひと時を堪能しました。新型コロナウイルスの影響で来賓の参加人数の制限をよぎなくされましたが、コロナに負けるかと言わんばかりに職員、利用者の皆さんとともに準備を進め開催することが出来ました。来年は多数の皆様が参加できるような状況になることを祈りつつ、新しい年も日常を少しでも支える事が出来るようにしていきます。

エデンの園 ふれあい サービス管理責任者 谷 口 博 孝



女性利用者・職員によるダンスです。

エデンの園 第2福祉課

●エデンホーム森永(青い鳥・ほのか)



昼食の焼きそば作り(青い鳥)

今年度は新型コロナウイルスの影響で、色々と予定が狂う事が多くあり、グループホームならではの楽しみと言える行事面も何カ月もの間中止・縮小・延期となって、利用者様はストレスの多い日々を過ごされていたのではないかと思います。そういった中でも、「出来る事は可能な限りしよう」とエデンホーム森永では両ホーム工夫した余暇の提供を行いながら、気分転換・楽しみへと繋げてきました。また、併せて「食の充実」という部分で、外出などが出来ない分、ホーム内でも楽しんで過ごして頂くように、食事面での工夫も行って参りました。今も尚続く新型コロナウイルスの影響で先行きも全く見えていません。来年はもっと自由に生活が出来るようになることを願うばかりです。今後とも安心して楽しく過ごせるアットホームな雰囲気を作っていきたいと思えます。

エデンホーム森永 チーフ 保利 翼

●放課後等デイサービス麦わらぼうし

麦わらぼうしクリスマス会

12月19日(土)に麦わらぼうしのクリスマス会が行われました。

今年は新型コロナ感染予防のため来賓や保護者の参加を制限させていただいたりなど、例年と違う形での開催となりました。

その中でも子ども達は一生懸命出し物の練習を頑張りました。クリスマス会本番では、それぞれの特技や個性を一杯発揮し、新しい一面もたくさん見られました。来年はコロナも収まって、盛大にクリスマス会を開催できたら嬉しいです。



指導員 星崎 悠成

楽しいクリスマス会になりました。

●就労継続支援B型事業所つむぎ

リンゴ贈呈式に参加しました。

エデンの園を代表して、リンゴの贈呈式に参加しました。お礼の謝辞を代表で鳥井政哉さんが行うことになりました。前日は多少緊張していましたが、当日は立派に謝辞を伝えることが出来ました。

今回はコロナの影響もあり参加している施設等も限られたものではありませんでしたが、何事にも一生懸命に取り組む彼の姿は、職員やご家族の方々はもちろん誰もが好感をもてるものだと思います。

一見すると当たり前の事かもしれませんが、努力家で何事にも一生懸命な彼だからこそ今回の機会を糧として、ますます成長する姿を見せてくれるのではないかと期待しています。

就労支援B型事業所 チーフ 大山 貴司



贈呈式的一幕

アート作品コーナー

今回のアートコーナーは、障がい者支援施設エデンの園作品、生活介護事業所エデンの園ふれあいのパステルアート、放課後等デイサービス麦あらぼうしの作品を紹介します。



フェルトで作ったツリー(エデンの園)



パステルアート：けんたろうさんと共に(ふれあい)



パステルアート：虹(ふれあい)



パステルアート：たいよう(ふれあい)



令和2年度新任職員研修作品



陶芸作品(麦あらぼうし)

相談支援の窓から～その11～

相談支援専門員 渡部 強士

2021年が始まりましたが、昨年2020年はどのような年だったでしょうか？多くの方にとっては、コロナウイルスの影響により我慢を強いられる年だったかと思います。

さて、2020年の『今年の漢字』は、『密』になりました。新語・流行語大賞の年間大賞にもなった『3密』という言葉が提唱され、生活・行動様式が密にならないよう意識しました。ソーシャルディスタンスやマスクの常時着用、不要不急の外出を避けるなど今までと違う新しい常識（状態）に変わった（変革が起こった）ことで、ニューノーマルが言われるようになりました。

ノーマルに関わる私たち障がい福祉関係者に馴染み深い別の言葉があります。それは、『ノーマライゼーション』です。常態化という意味があるノーマライゼーションは、「違いのあることを当たり前にしよう。」ということ、全ての障がい者の日常生活の様式等を通常の社会環境や生活様式に可能な限り近づけ、できるだけノーマルに近い生活を提供しようとすることです。障がいを持っているから難しいと周囲が思っていたとしても、障がいを持っている方々も私たちと同じように、『旅行に行きたい』、『働きたい』、『一人暮らしをしたい』、『結婚したい』等の想いを抱いています。私たちは、障がい福祉サービスを利用してもらうために仕事をしているわけではなく、利用者様に寄り添い、『未来（ゆめ）に向かって共に歩む』のスローガンのもと、そのようなご希望を実現するために何ができるか、どう環境を整えれば良いか考えながらお手伝いを行いたいと思っています。

2021年はコロナの脅威がなくなり、今まで以上にお互いを思いやることができる年になるよう願いますと共に、今後、障がいを持たれている方々の、より良い環境がニューノーマルとして世の中に広がり、豊かな生活を送れるよう、利用者個々人のニーズを踏まえ、コロナ禍の中だからこそ『密』な支援を行っていきたいと思います。



季節に合わせて入口の飾りを変更しています！

土曜学校メッセージ

金桓基牧師（宮崎めぐみ教会）、印慶子牧師（宮崎柳丸キリスト教会）
海老原直宏牧師（宮崎北聖書キリスト教会）、山口英希牧師（宮崎清水町教会）
荒平大輔牧師（宮崎北聖書キリスト教会）、浅野 謙牧師（霧島キリスト教会）

寄贈品・寄附金・ボランティアありがとうございます。（10月～12月）

上野聖子様、グッドライフ様、佐藤カズコ様、社会福祉法人廣海会様、アスカ保険様、日高薫様、伊波寛様、坂本匡久様、坂本シヅ子様、丸井プロパン様、渡部工務店様、ライフサポート様、森工務店様、宮崎電気管理協会様、湊玲子様、内野みどり様、コスモ設計様、はまゆう園様、ライフのパン様、サンスマイル様、グリーンガーデン様、廣瀬律子様、宮崎清水町教会様、エデンの園家族会様、落合理恵子様、山崎立美様、宮崎教会女性会様、北九州復興教会様、都城音訳・点訳友の会様

編集 後記

令和2年は新型コロナウイルス流行により、新たな生活様式が求められるようになってきました。法人内の各事業所でも今までとは違ったスタイルを模索しながら、感染予防と利用者支援の両立を図っております。利用者・職員共々、新しいスタイルのエデンの園を確立し、“with コロナ”を目指していきたいと思います。（光森）

■発行日 2021年1月23日 ■発行 社会福祉法人エデンの園 ■発行者 エデンの園施設長 廣瀬 恵
〒880-1114 宮崎県東諸県郡国富町三名2621-5 TEL.0985-75-4936 FAX.0985-75-1160
<http://miyazakieden/ec-net.jp/> E-mail miyazaki-eden@sirius.ocn.ne.jp